



第4回

自らまもる活動レポート

河川情報モニター
山口美三雄さん

平成17年の台風14号では、県内の各地で大きな被害を受けました。第4回は、国土交通省で新しく設けました河川情報モニター制度で、河川情報モニターを務められています山口美三雄さんにお話を伺いました。

●河川情報モニター制度とは、

近年、集中豪雨による災害が頻発しています。このような洪水の被害を最小限にとどめるためには、防災に関する情報が確実に地域住民に伝わり、避難行動に結びつけて頂くことが重要です。

そこで、住民の皆様方の視点で再点検し改善を図るとともに、防災情報を地域の方々に広めて頂く事で、地域の防災力の向上を図る事を目的として、河川情報モニター制度を新設しました。

現在、五ヶ瀬川水系では7名の方に河川情報モニターを実施して頂いております。

＜活動内容＞

- ① 河川管理者等から発信される防災情報の点検
- ② 住民の皆さんへの防災情報の普及
- ③ 出水の時に、浸水被害の情報の通報

○平成17年の台風14号を経験され、何を苦労されましたか。

平成17年は、私が初めて三須区長になった年でした。雨風の中、何回も河川へ行き、水防団が土嚢積みをして頂き、浸水を防いでくれましたが、大変怖い思いをしました。

そのような状況の中、いち早く、住民をどう避難させるかが一番気がかりになりました。様々な方法で避難する手段を行ったにもかかわらず、それほど避難された方がいませんでした。状況の判断ができない方や、自分では動けない方にいち早く避難場所への誘導する伝達手段について一番気にかかったことでした。

○河川情報モニターとして、どのように活動をされてきましたか。

私は住民と河川管理者等との情報の意思疎通がいかにスムーズにいくかということが、モニターとしての役割だと認識しています。

恒富地区の範囲を一人で把握することは容易ではないため、私が恒富地区の会長をしている関係で、各区长さんにもお願いして、防災情報を提供し、何かあれば声を聞かせてくださいとお願いしました。

○河川情報モニターとして、河川に対して目線が変わったことはありますか。

モニターをする以前は、堤防に設置されたカメラは、何のためにあるか気にもしなかったです。河川情報モニターになり、そのカメラが空間監視カメラだと知り、防災情報としての重要性をすごく考えるようになりました。

河川に関する目線は、住民との視点のみならず、河川管理者側からの視点でも考えないといけないと考えて河川情報モニターとして携わっています。

○住民の方は、おもにどのようにして防災情報を把握するのでしょうか。また、色々な情報を得る手段を把握しているのでしょうか。

テレビから情報を得る人が多いと思います。また、携帯はほとんどの皆さんが持っており、色々な情報が得られることの認識は広まってきていると感じます。なお、他の区長の方々等には、延岡市災害情報メールサービスへの登録を呼びかけています。

○1年間河川情報モニターを実施されたの感想はありますか？

河川情報モニターとして、情報に関する問題点は私だけではなく、地区内区長にも話をし、情報をあげてもらいやり方を取ってきましたが、この1年間は洪水も少なかったこともあり、活用する機会が少なかったと思います。もっと情報の掘り起こしを行なう事も必要だったという気がしています。

河川管理者等で発信している情報は、十分であると思いますので、区長会等への組織に対して広めて行きたいと思います。また河川管理者としても、積極的に広報していく事を期待しています。

本日は貴重なお話を、ありがとうございました。

■五ヶ瀬川水系河川情報モニター (平成21年5月迄)

地区	氏名
岡富地区	ヨシモト コウイチ 吉本 興市
岡富地区	カメヤマ ツトム 亀山 勉
川中地区	タカシ エツオ 高司 悦生
恒富地区	ヤマグチ ミサオ 山口 美三雄
南方地区	サトウ タケヒコ 佐藤 武彦
南方地区	カイ ショウヘイ 甲斐 省平
東海地区	ヨシダ トシハル 吉田 敏春

平成21年5月発行



みずからまもるレポート

vol.4



大瀬川の大瀬大橋下流左岸の河道掘削完了

「みずからまもる」プロジェクトの現在の状況とこれからの取り組みをお伝えします。



小峰地区(H17.9台風14号出水時)

五ヶ瀬川・大瀬川・祝子川・北川が市の中心部を流れる延岡市では、平成17年に発生した台風14号により、軒並み戦後最高となる水位を記録し、市内5ヶ所では堤防を越水、河川水位の上昇による内水被害が発生するなど大きな爪跡を残しました。

このような被害を軽減するため、平成17年11月18日「五ヶ瀬川激甚災害対策特別緊急事業(通称:激特事業)」に採択され、平成21年度までの5カ年計画(安賀多橋架替については平成

22年度まで)で、集中的に河川改修を進めています。

併せて浸水被害を着実に軽減させるために国・県・市が一体となった「みずからまもる」プロジェクトを設立し、地域や関係機関と連携しながら、河川事業などのハード整備だけでなく、防災情報の提供やハザードマップの公表など、ソフト面での対策も行っています。

現在の進捗状況と今後の取り組みについてレポートします。



大瀬川の大瀬大橋下流左岸の河道掘削状況

激特事業とは？

洪水や高潮などにより大きな被害が発生した地域において、様々な河川改修を短期間(概ね5カ年)に集中して行い、その後の災害被害を軽減する事業です。平成9年に大きな被害があった五ヶ瀬川水系北川では、すでにこの事業の効果が発揮されています。

「みずからまもる」とは？

災害を防ぐためには、治水事業だけの整備では限界があり、各行政や地域のみならず自ら被害を軽減するための「災害に強い地域づくり」を進めることが大切です。このため、水を治める「水からまもる」と、自らをまもる「自らまもる」を併せて、被害軽減に努める意味で「みずからまもる」プロジェクトとし、一日でも早い被害軽減を図ります。

「みずからまもるレポート」についてのご意見、お問い合わせは

延岡河川国道事務所
調査第一課

☎ 0982-31-1191

延岡土木事務所
河川砂防課

☎ 0982-21-6143

国土交通省 九州地方整備局 延岡河川国道事務所

〒882-0803 延岡市大貫町1丁目2889

■HPアドレス <http://www.qsr.mlit.go.jp/nobeoka/>

■メールアドレス nobeoka@qsr.mlit.go.jp

延岡土木事務所

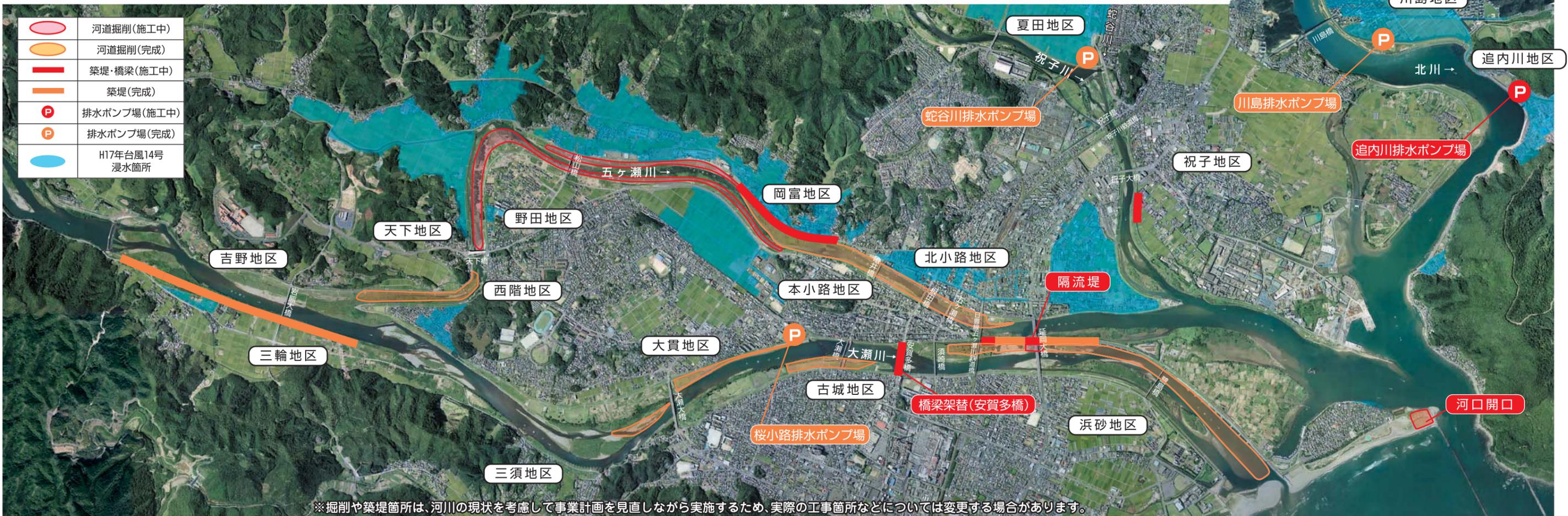
〒882-0872 延岡市愛宕町2-15

■HPアドレス <http://www.pref.miyazaki.lg.jp>

■メールアドレス kasen@pref.miyazaki.lg.jp

※各ページに掲載の写真及び記事などの無断転載を禁じます。

水からまもる ～五ヶ瀬川激甚災害対策特別緊急事業（通称：激特事業）の進捗状況④～



河道掘削 かどうくっさく

河道掘削とは、川を広くまたは深くして洪水を流れやすくする工事です。

五ヶ瀬川では、平成20年度末までに、大瀬川(浜砂地区、古城地区、大貫地区)、五ヶ瀬川(岡富・古川地区、本小路・北小路地区)の掘削を実施してきました。

今後、五ヶ瀬川(野田地区、河口開口)、大瀬川(隔流地区)の河道掘削を実施します。



五ヶ瀬川の天下橋下流の河道掘削状況

隔流堤 かくりゅうてい

洪水による河川の流れを分離することにより、合流による水位上昇を防ぎます。

現在、JR日豊本線付近の工事を実施中であり、総延長約760mのうち、平成20年度末までに約500m完成しています。

今後は、延岡大橋付近の工事を実施します。



JR日豊本線付近の施工状況

堤防 ていぼう

洪水が越水しないよう堤防を設置(築堤)、または計画の高さまで高くします(かさ上げ)。

五ヶ瀬川(三輪地区)の堤防は、平成20年度末に完成しました。

また、五ヶ瀬川(岡富・古川地区)については、宮崎県、延岡市土地改良区と連携し、宅地及び道路改良工事と併せて、堤防のかさ上げを実施します。



三輪地区築堤施工前

三輪地区築堤施工後

安賀多橋架替 あがたばしかけかえ

橋の高さが低く、洪水時の流れの阻害となっていた安賀多橋について、架け替えを行ない洪水を安全に流しやすくします。

架け替えを行うにあたり「安賀多橋の景観を考える会」を3回開催し、これまでの安賀多橋の景観を損なわないよう橋面のデザインや色彩等を決定しました。

工事は、現在までに仮設橋を設置し交通の迂回を確保した上で、旧橋の上部工撤去が完了しています。

平成21年度は、前年度から継続して旧橋の橋脚撤去と新橋の橋脚設置及び上部工を実施します。



安賀多橋架替の状況

自らまもる ～ 水害に強い地域づくり④ ～

災害に強い地域づくりに向けた五ヶ瀬川防災情報の提供

～携帯電話や一般固定電話からも情報入手が可能～

五ヶ瀬川水系浸水被害軽減対策協議会(国土交通省・宮崎県・延岡市)では、災害に強い地域づくりの推進に向け様々なソフト対策を展開しており、国土交通省では、その取り組みの一環として、五ヶ瀬川に関する防災情報の提供を重点的に推進しています。

昨年までの取り組み

インターネットによる防災情報の提供

昨年6月から、インターネットを利用して五ヶ瀬川流域の防災情報をいち早く提供する「五ヶ瀬川防災情報システム」の運用を開始し、パソコンから様々な情報が入手可能となっています。

- レーダー雨量
- 雨量
- 河川カメラ画像
- 水位
- 情報掲示板

▶ <http://gokasegawa-bousai.qsr.mlit.go.jp/index.php>



今年度からの取り組み

携帯電話への防災情報の提供

水位・雨量・レーダ雨量・河川監視カメラ画像や水防警報・洪水予報等の五ヶ瀬川防災情報システムの情報が携帯電話からも入手可能となりました。また、洪水時のみ提供していた河川監視カメラ画像は、インターネットも含めて24時間閲覧できます。

▶ <http://gokasegawa-bousai.qsr.mlit.go.jp/keitai/top.html>

一般固定電話への防災情報提供

インターネットや携帯電話を利用されない方でも、流域の代表的な地点の水位・雨量等の情報が一般固定電話から音声で入手できるようになりました。

▶ 0982-31-3000

※発信側の回線数が限られていますので、話し中の場合は時間をおいてお掛け直し下さい。
尚、音声での情報は携帯電話からでも入手できます。

トップページ

レーダ雨量画面

河川水位画面

河川カメラ画像

地区別冠水情報

携帯電話版の画像

国土交通省としても、防災関係機関や、さらに多くの住民の方々に幅広く活用して頂くことで、避難等の危機管理に役立てて頂きたいと考えております。

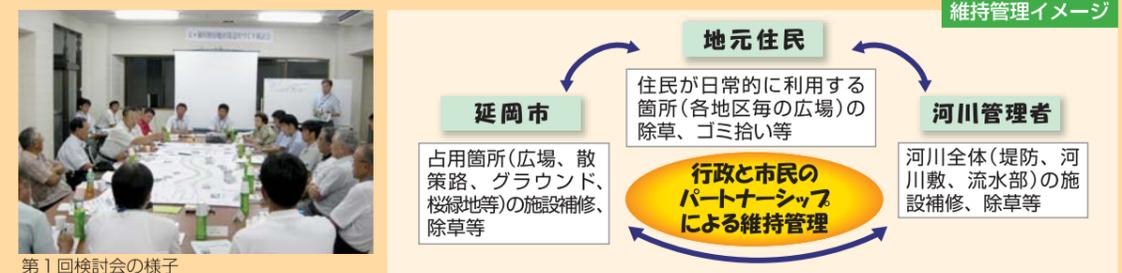
【問い合わせ】 国土交通省 延岡河川国道事務所 調査第一課 (☎0982-31-1191)

川で遊び学び、人々が集い出会う、活力ある地域づくりに向けた川づくり

「五ヶ瀬川野田地区周辺川づくり検討会」の実施

河道掘削に併せて行う河川敷等の利活用整備について、地元住民・NPO・学校関係者・旭化成・行政等との協働により、親しみのある川づくりに向けた整備プランを決定しました。

また、整備後の管理面について、役割分担を決めパートナーシップによる維持管理を行っていくことを検討会のメンバーにより決定しました。



第1回検討会の様子



排水ポンプ場 はいすいぽんぷじょう

洪水時に対象支川の水を、ポンプを使って本川に強制的に排水する施設です。

- ① 追内川排水ポンプ場(北川) [12m³/s]
平成19年度に工事着手し、平成21年度完成に向けて工事を実施します。
- ② 蛇谷川排水ポンプ場(祝子川) [5m³/s]
平成19年度より宮崎県で工事を実施し、平成21年3月に完成しました。

